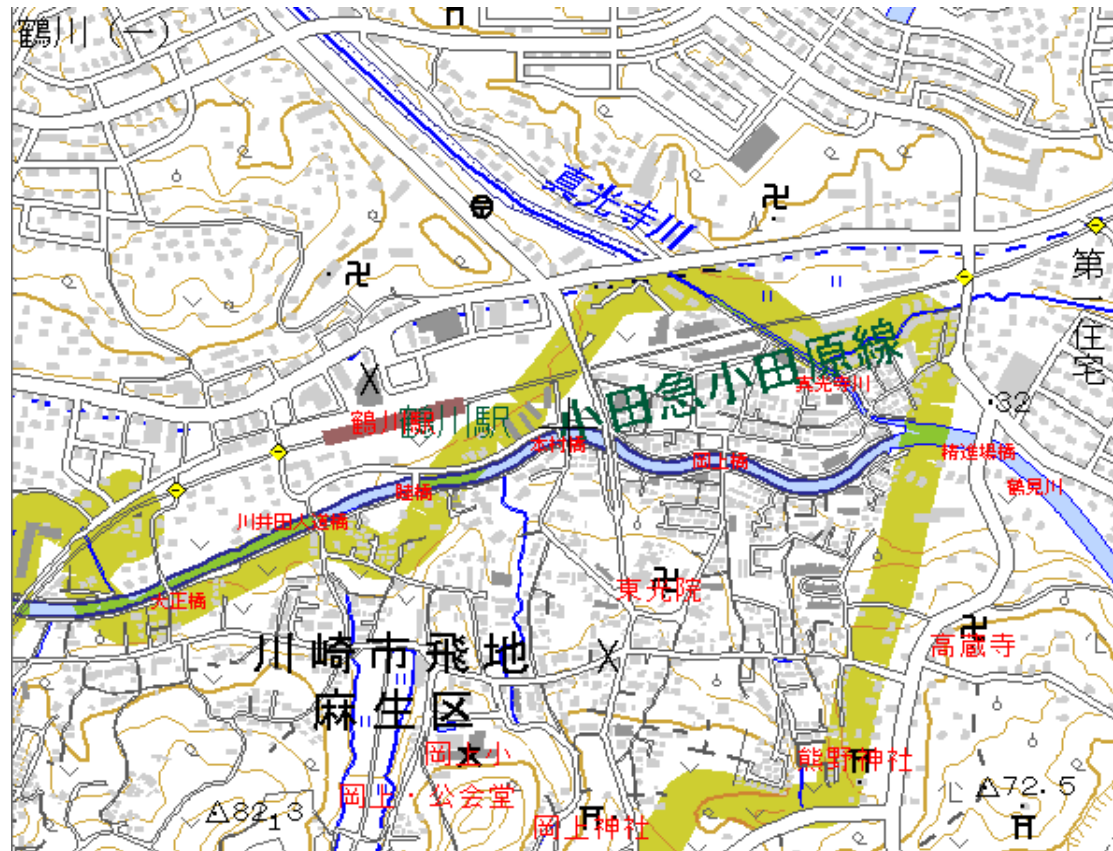
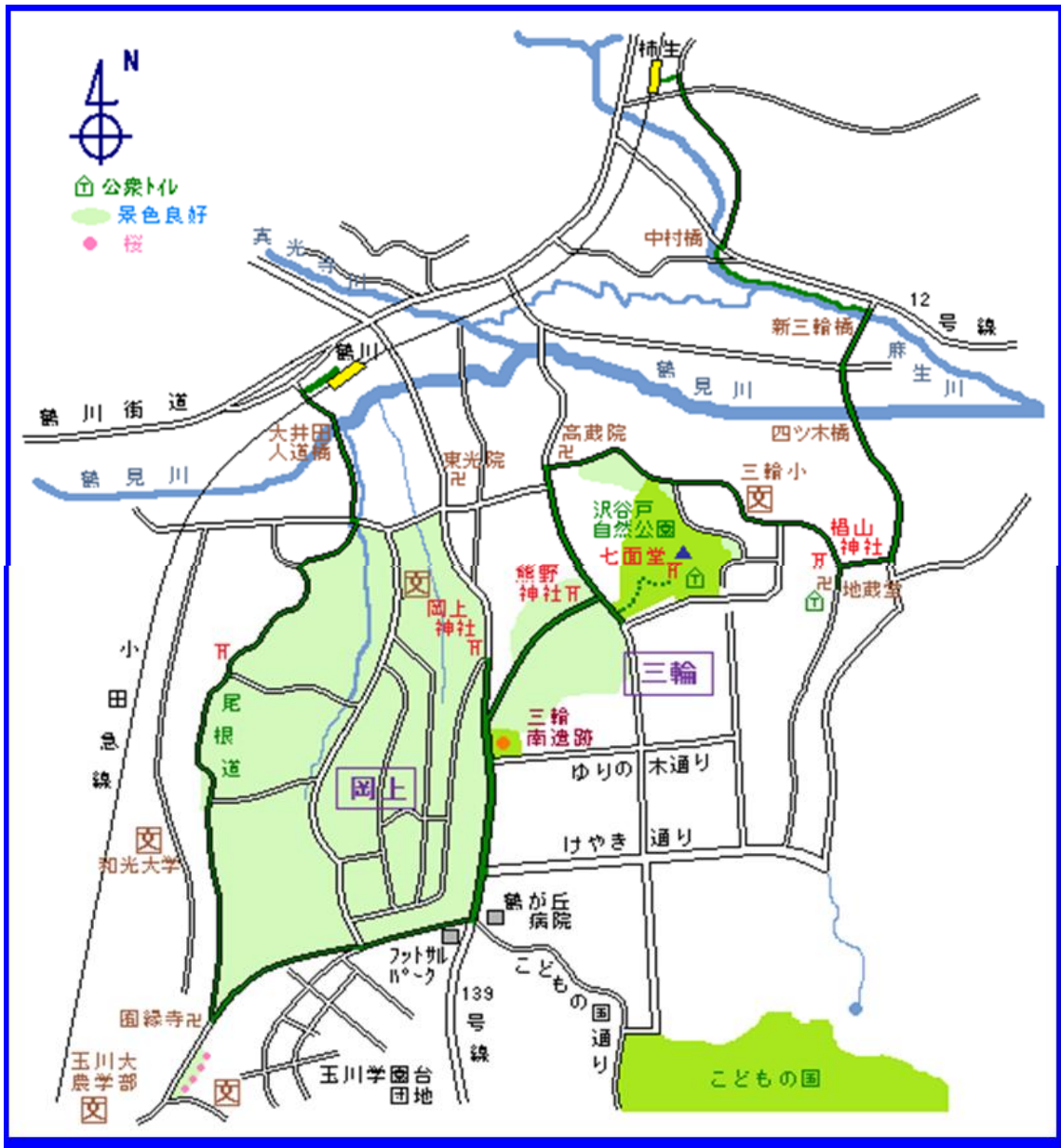


# 岡上廃寺跡 (おかがみはいじあと (川崎市))

関連ホームページ

<http://www.city.kawasaki.jp/88/88bunka/home/top/stop/dokuhon/t0710.htm>







[三輪南遺跡の瓦窯址]



説明書きによれば、三輪南遺跡は奈良時代後半期と平安時代中期の集落跡で、奈良時代の住居跡4軒と瓦を焼いた窯址1基、平安時代の住居跡1軒がある。住居跡は竪穴式で、かまどや柱穴が残っていた。床面からは土師器甕、須恵器坏、瓦が出土したという。これらのことから、奈良時代の住居跡は瓦を焼いていた工人の住まいや作業場であったと考えられている。ここで焼かれた瓦は、ここから北東方向500mにあった「岡上廃寺」に供給されていたと推定されている。

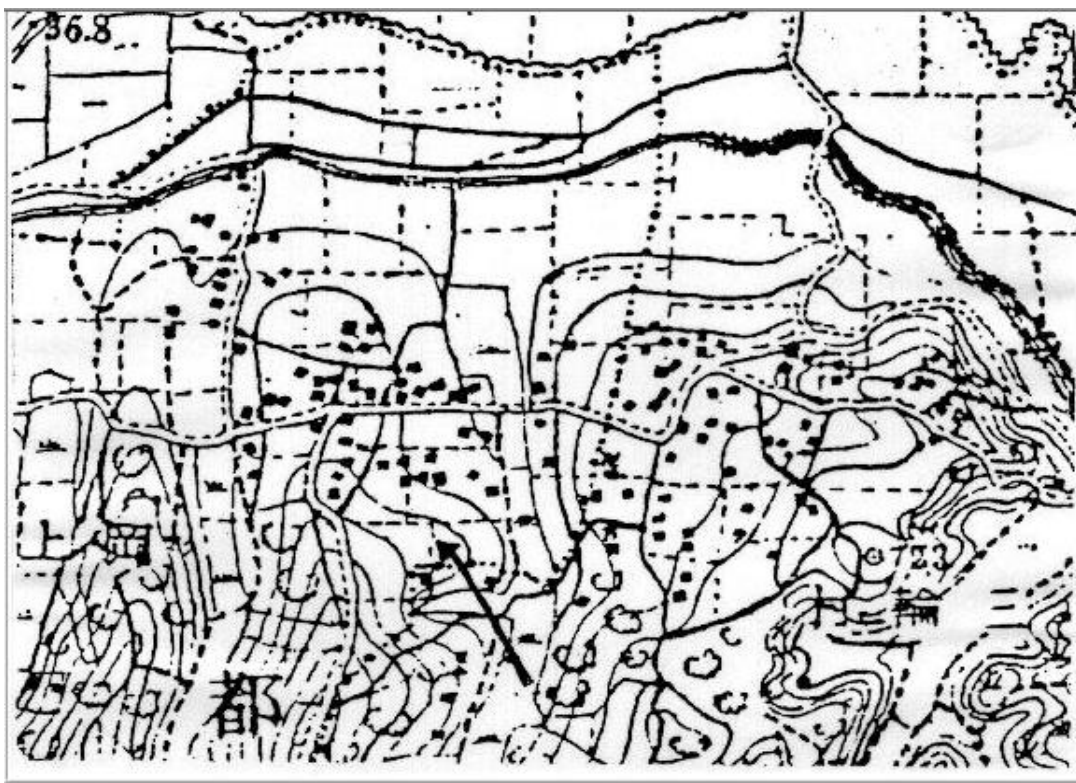
ここは奈良時代と平安時代の集落跡三輪南遺跡(4)。住居は地面を掘って建てられた竪穴形式で、柱の穴とかまどの跡が残されていたといえます。瓦を焼いていた工人たちの住まいと窯であり、瓦はここより北東500メートルにあった「岡上廃寺」に供給されていたと考えられているそうです。



岡上廃寺跡推定地



●(資料1)奈良時代の寺, 岡上阿部原廃寺。



地図1 - 岡上阿部原廃寺

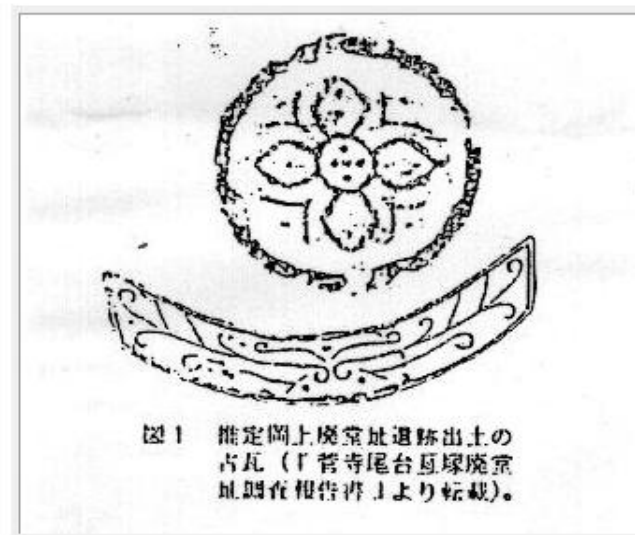


図1 - 古瓦

麻生地区のいちばん西側の岡上地区に、奈良時代の寺院跡と推定される遺跡があります。岡上東光院の南側の丘陵上にある、阿部原廃寺です。この地からは、8世紀中頃とみられる武蔵国分寺式の瓦が発見されており、礎石が発見されていないので、小規模な掘立柱(注4)の仏堂であったと考えられています。

またここからは、「荏」「国」と書かれた瓦が出土していることから、隣接の荏原郡の郡家(郡を治める役所・その長である豪族の屋敷でもある)や国衙(国府の役所)からの寄進があったと推定され、この寺は都筑郡の郡司(郡を治める豪族)の一員であった豪族が建立したものと推定されています。(川崎市史を参照。)(注5)

このことから8世紀中頃、ちょうど王禪寺伝説の始まる頃に、この地に仏教を信じる豪族がいたことがわかります。









